

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0971200340		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	くろいそケアセンターそよ風		
所在地	栃木県那須塩原市豊浦南町83-120 (電話) 0287-60-7851		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年6月11日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人 6 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算7.0人 常勤6人(うち兼務1人), 常勤換算6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	・運営管理費—21,000円 ・エレベーター保守料—1,000円 ・理美容代、おむつ代—実費
敷金	有(90,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有(4年)
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人博愛会 菅間記念病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社メデカジャパンが運営する「くろいそケアセンターそよ風」は、周囲を木立ちに囲まれた3階建てで、ホームは2階に位置し、デイサービスセンター、ショートステイ施設が同じ建物内に併設されている。職員は、目配りをしながら穏やかに入居者に接しており、入居者と職員と一緒に食事を用意するなど、家庭的な雰囲気が感じられた。共有空間には生け花などが飾られ、明るく落ち着いた生活環境づくりの配慮がなされている。職員は法人本部研修や外部研修を積極的に受講し、またホーム内勉強会を定期的実施し、それらを通して、より高い質のホームづくりを目指して取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果については、運営推進会議に報告している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の取り組みは職員に配布して、職員が分担して実施し、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは、入居者代表、家族代表、自治会長、行政職員で、会議は昨年度4回開催されている。会議ではホームから現状報告や諸課題を投げかけ、意見交換をし、サービス向上に活かしている。市及び担当者との連携が図られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には声かけをし、入居者の状況報告を行うとともに、要望等を伺っている。ホームだよりを毎月発行している。苦情解決体制が整っており、重要事項説明書に苦情窓口及び責任者が明記されている。意見箱も設置しているが、現在までに意見・苦情は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の一斉清掃活動に参加したり、回覧板をまわしたりしている。また、ホームが秋祭りの際の休憩所となっており、子どもや地域住民との交流の場となっている。また、散歩時には近隣住民と挨拶をかわしたり、話をするなど交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として、「高齢社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく健やかなヒューマンライフを支える」ことを掲げ、「言葉づかい、あいさつ、笑顔」を基本姿勢としてケアを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に全職員で理念の唱和を行い、理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の一斉清掃活動に参加したり、回覧板をまわしたりしている。また、ホームが秋祭りの際の休憩所となっており、子どもや地域住民との交流の場となっている。また、散歩時には近隣住民と挨拶をかわしたり、話をするなど交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、運営推進会議に報告している。今回の自己評価の取り組みは職員に配布して、職員が分担して実施し、最終的に管理者がまとめた。	○	外部評価の結果も踏まえて運営推進会議で意見交換をし、改善に取り組むことを期待したい。また、自己評価については、職員の思いや考え方を共有する機会という意味でも、意見交換の場を設けることにも期待したい。

くろいそケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、入居者代表、家族代表、自治会長、行政職員で、会議は昨年度4回開催されている。会議ではホームから現状報告や諸課題を投げかけ、意見交換をし、サービス向上に活かしている。	○	会議の開催については、本年度から2か月に1回開催できるよう計画している。地域の理解や支援を得るための貴重な機会として、参加者から質問や意見・要望を聞き、双方向的な会議に配慮しながら運営に活かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携が図られており、市担当者からアドバイスを得て、サービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行している「そよ風だより」で入居者の状況等を報告している。金銭管理については、家族が面会の際に出納帳で確認してもらっている。職員の異動等については報告していない。	○	毎月家族に「そよ風だより」を送付していることを活かして、入居者個々のホームでの日常の様子や健康状態、職員の異動を伝えるなど更なる充実を図っていくことにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口及び責任者が明示されている。意見箱も設置されているが、今まで苦情は寄せられていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに管理者及び職員の異動（離職）が多く、苦慮している状況である。離職の原因を把握しており、法人本部と協議し、離職を最小限に抑える努力をしている。職員が代わる場合は入居者へのダメージを抑える努力をしている。	○	離職者を防ぐための検討・協議を法人本部と続けていくことを期待したい。また、入居者のダメージを最小限に抑える努力として、職員の引き継ぎの徹底や職員間の連帯感を高め、目配り、気配りをしてスムーズに移行できるよう配慮することを期待したい。

くろいそケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の新人・中堅・ベテランと職員の経験年数に応じた研修を計画的に受講している。ホーム内においても2か月に1回、勉強会を行っている。外部研修については、感染症等の仕事上必要な研修に積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、研修会等で意見交換をして交流を図っている。また、市の地域密着型連絡協議会に積極的に参加し、意見交換をしてサービス向上につなげたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、分かりやすく説明し、相談にのりながら、本人が安心、納得して生活できるよう本人の意思を尊重して支援している。入居間もない時期には、特に目配りを重視した支援の配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを把握しながら職員と一緒にやるなど、お互いが支えあう関係ができている。地域の昔の風習などを教わっている。訪問時にも料理の味付けや食事の準備、後片付けをしている入居者の姿が見られた。		

くろいそケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で声かけや話をしながら入居者が求めていることを把握している。希望や意向の表出が困難な場合には、日常生活の中での入居者の言葉やしぐさ、変化の様子などからくみとるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を実施し、職員一人ひとりの意見を参考にして検討している。また、併設のデイサービスセンターの看護師や栄養士の意見も取り入れている。介護計画の職員間での共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは年1回であるが、介護保険の更新時や要介護度が変更になった時などには、心身の機能の低下などの状態を把握し、その都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の看護師との連携を図り、車いす利用の入居者等に対して、機械浴等の活用を図るなど、柔軟な支援に努めている。		

くろいそケアセンターそよ風


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。容体の変化時の対応については協力医療機関で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針や職員間での話し合いは行われていない。	○	職員の話し合いを重ね、必要に応じて医療機関等との連携も検討しながら、ホームとしてできる最大限の支援方法を踏まえて方針・指針を職員間で作成・共有し、折に触れて本人、家族と話し合っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重し、日々の声かけや対応について職員間で統一を図りながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めず、入居者の希望により生活できるように配慮している。訪問時にも民謡を歌ったり折り紙などをして、入居者が思い思いに過ごされていた。		

くろいそケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1週間まとめて法人本部から送付され、ホームでは献立をもとに入居者の好みに配慮しながら食事の支援をしている。食事の準備や味付け等、職員と入居者が一緒に行っている。職員は検食者1名が入居者と同じものを食べ、他の職員は別の食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日、午後に入浴を支援しているが、職員のローテーションの関係で入居者の好きな時間帯に入浴できるような対応ができていない。	○	職員のローテーション等での困難さもあるが、入居者一人ひとりの希望にそった入浴を支援できるような工夫、配慮などについての検討を重ねていくことに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、花の水やり等、入居者それぞれの役割がある。また、生け花や折り紙、着付け等の楽しみごともあり、入居者一人ひとりに合った支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の車での外出（外食を含む）の機会を設けている。また、週1回、職員と一緒に買い物に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターは暗証番号でロックされており、入居者が自由に外に出ることが難しい状況になっている。入居者が外出を希望する時は、職員が付き添って支援している。	○	入居者の安全、また、入居者の心理面にも配慮しながら、入居者の自由な暮らしの支え方について、今後も検討を重ねていくことに期待したい。

くろいそケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと定期的に防災訓練を行っている。また、運営推進会議で地域の自治会長と災害時の話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養バランス等に注意しながら支援している。水分摂取についても、記録をしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者の動線にも配慮しながら、入居者の手作りの作品が飾られている。訪問時には、母の日にちなんだカーネーションがテーブルに飾ってあり、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、仏壇、着物など馴染みのものが自由に持ち込まれている。入居者と相談しながら、入居者それぞれの好みに合わせた居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。